



# 志林川 (シーリンカー)

## 屋取集落から発展

志林川は、高江洲の後方具志川環状線から西側に出雲ブライダルギヤラリーラピス（出雲会館）、志林川公民館、県道75号線を超えてサンエー赤道シヨップینگタウン付近まで広がっている。方言で「シーリンカー」と言う。ここは、主に首里系の人々が移住してきたいわゆる屋取集落で、移住当初は28軒ほどの集落だったといわれている。高江洲の行政区にあつたが昭和48年に高江洲から行政区として分離独立した。

この一帯は、今でこそ県道75号線沿いに各種の商店や金融機関、病院などが建ち並び、にぎやかな感を受けるが数十年前までは平良川からコザ十字路までの間は人家もまばらで閑散としていた。

志林川は、当初「尻川」と表記されて、県道75号線の出雲ブライダルギヤラリーラピス（出雲会館）入口付近には「尻川バス停」の標識もあった。

シーリンカーはその音韻から「尻の皮」

というイメージを受け、特に女性にとつては「シーリンカー」という言葉に抵抗があつたので「志林川」に、また「尻川バス停」もバス会社と交渉して「志林川バス停」に改名したということが『志林川自治会20周年記念誌』に記録されている。では、志林川にはどのような語源や意味があるだろうか。

## 志林川の語源と意味

シーリンカーは、あまり耳慣れない地名だがよく調べてみると、これに類似している地名は意外と多く存在する。久米島町字山城にシーリンカー（小字）があり、かつては、真和志間切天久村に志利川（シーリンカー）があつた。また、宜野座村松田に志利川原（シーリンカー）があり、同じく本部町伊良波に後川原、本市宇堅には、尻川原がある。これらの志利・後・尻には、どのような意味があるだろうか。

### 【シリの意味】

・しりい

うしろの事。和詞にはしりへ（と云）。

後方。方言シリー。しり（尻）・へ（方）からなっている『混効験集の研究』（池宮正治著）。

・しるへ

後方・裏、口語はしりー、シリーは、「しるへ」（尻辺）がもとの形『沖繩古語大辞典』。

以上のようにシーリンカーの「しり」

は、後方、裏辺を意味する。ちなみに、沖繩では後方、裏辺を指すには「クシ」を使うことが多い。後原はうるま市内だけでも13か所も見られる。また、南風原に釜尻がある。

### 【カワの意味】

先述の久米島シーリンカーについては「集落後方の井戸をシーリンカー」と呼んだのではないかと、『久米島の地名と民俗』（中村昌尚著）はシリは後方、カーは、井戸として解釈している。

しかし、本市の志林川は元の字である高江洲の人々から呼ばれた地名であり、日常生活圏とは離れたところにある井戸（カー）とは考えにくいし、また川もなかったと語られている。

このようなことからこの「カー」は、側、または方の意味であると考えたい。

## 志林川の命名

志林川地名の誕生について『志林川自治会20周年記念誌』は「志林川区の独立分離にあたって区の名称は志志神山に起因する。志志神山は地域の人々に敬虔の念で迎えられている山であり、その志をもらい、若々しく伸び行くことを願い、林の文字を入れ、志林川とした」と記している。

当初シーリンカーと呼ばれていた地名

が「尻川」と表記され不愉快な思いをしたので志志神山の志、これが二つ並び伸び行くことを願って林、カーはそのまま川をあてて「志林川」という地名が誕生した。

しかし、その地名のもととの意味は、高江洲本字の前方に位置する前原に対する「後の方・側にあるところ」と言う意味である。

## ハンタ

『ぐしかわ今昔物語』（安座真裕著）に屋取集落として「繁田原しりんカー」という地名がでてくる。これは現在の志林川一帯の東繁多原・西繁多原をさしている。ハンタ原の小子地名は、繁田原、繁多原、半田原、ハンタ原などと表記され、平安座には羽牟田があるが意味は同じである。

ハンタは、高所や崖のことで夏は涼しく、肝すがり所で絶好の毛遊びの場であった。ただし、崖つぶちで危ないので「ハンタサヌ」という方言も使われている。

西原町の坂田小学校一帯は高台にあり坂田升と呼ばれていたが、ここに小学校ができたので「坂田小学校」と名づけられた。